

# 千葉県立四街道高等学校

## JRC同好会

高校生ボランティア・アワード2022

### 「非接触型ボランティア」

#### 『非接触型ボランティア』とは？

新型コロナウイルスの流行によって、それまで行っていた市内の特別支援学校や介護老人福祉施設を訪れるなどの活動をそのまま行うことが難しくなりました。そこで、自分たちに何が出来るかを部員同士で話し合い、間接的にボランティアを継続していくことになりました。これが**非接触型ボランティア**です。

#### 今まで行ってきた非接触型ボランティアの例

1. 掲示物/メッセージカードの作成  
→令和2年度より実施
2. フードバンクの実施  
→令和3年度より実施
3. JR四街道駅との共同ボランティア  
→令和4年度より実施  
※JR四街道駅は本校の最寄り駅

#### 活動概要

新型コロナウイルスの流行により、施設を訪れて施設の方々と直接会って行うような活動を継続して行くことが難しくなったことを受け、上記のような活動を行って行くことにしました。コロナ禍で、人と人とのつながりが薄れてしまっているという現状を変えるためにも、「**こころの交流**」という言葉を中心に活動を続けてきました。部員それぞれがどんな活動を行っていけばよいかを各々考え、部全体でアイデアを共有することでよりレベルの高いボランティアをしていくことができるよう努力を重ねています。

#### 非接触型ボランティア



### 「こころの交流」

#### 『こころの交流』の意味

私たちは、ボランティア活動を行っていくうえで「こころの交流」という言葉を大切にしています。この「こころの交流」という言葉は、このコロナ禍で直接会って交流することができなくても、交流先の方々のことを思い、**共に歩んで行こう**という気持ちが込められています。

#### 『こころの交流』の実践

この「こころの交流」を実現させるためにも、掲示物を作成する際には交流先のリクエストを聴く、どうしたら交流先の方々が喜んでくれるかを考えてメッセージカードを作成するなどの工夫を重ねました。また、駅に掲示したメッセージカードは、駅を利用する人も自分の**夢や目標**を書くことができるように工夫し、数多くの方が公共の場で交流することができるようにしました。加えて、フードバンクを寄付する際にも、食品を受け取った方が自分も「**社会とつながっているんだ**」と思えるようなメッセージを付けたコースターなどを作成しました。これらの活動で、「こころの交流」を意識して今日までボランティアを続けてきました。

#### 活動目的

私たちの活動の目的はこの「こころの交流」の輪を学校内だけでなく、学校のある地域、さらにその外側に広げていくことです。この「こころの交流」が広まることで、地域全体が優しい場所となりより住みよい環境に変わっていくと思います。そうした、小さな変化が広がっていくことで、私たち自身も落ち込んだり、傷ついたときには逆に**勇気や元気を**もらうことができます。今後も「こころの交流」を地域に広げていくことで、誰もが手を携えて助け合っていくことのできる地域にしていきたいと考えます。

### 「こころの交流を大切にしたボランティア」

#### 活動内容

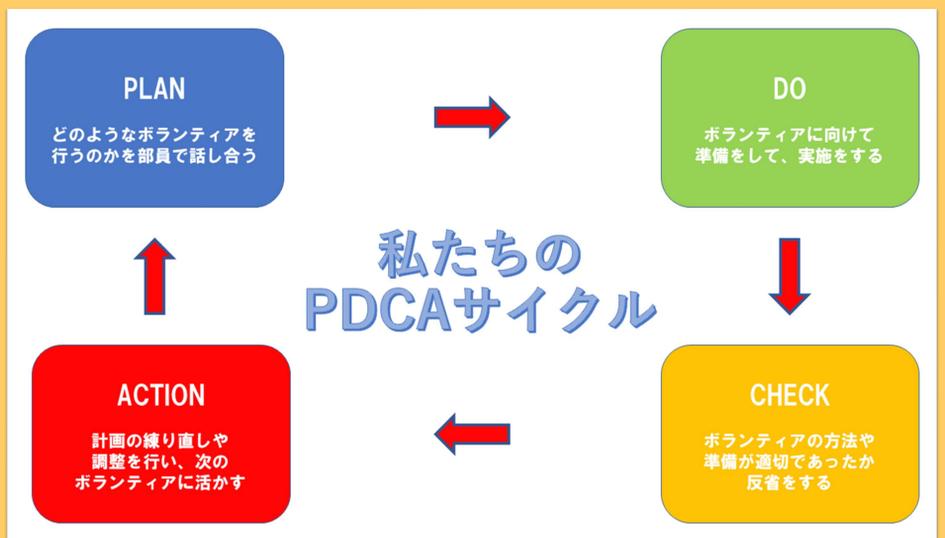
**1. 掲示物/メッセージカードの作成**  
掲示物とメッセージカードを作成し、これまで交流のあった施設に届けるというものです。掲示物は、外に出ることが難しい子供達や高齢の方々に季節感を感じてもらいたいと考え、季節ごとにテーマを決めて作成しています。実際に9月の掲示物では、お月見をテーマに作成をし、メッセージ性を持たせました。また、掲示物を見ていただいた方に楽しんでほしいという思いから、手で触って質感や手触りを感じられる作り方も模索し、**完成度(リアリティ)**を追及して工夫を重ねました。メッセージカードは、毎月お誕生日カードと12月にはクリスマスカードを交流先の方々に届けて作成お届けをしています。私たちは、メッセージカードを作るうえで大切にしていることがあります。それは、カードを受け取った方に**楽しんでもらうこと**と**元気を出してもらうこと**です。そのためにも、メッセージカードには面白い仕掛けを施したり、メッセージの内容をこころ温まるものにするなどの工夫をしています。

**2. フードバンクの実施**  
私たちは、フードバンクを昨年度から開始しました。フードバンクを始めることにしたきっかけは、このコロナ禍の影響で経済的に困窮している方が学校のある四街道市内に数多くいることを知ったからです。そこで、高校生でもできる活動としてフードバンクがあることを知り、実施することになりました。市内でも高校生がフードバンクを行うのは初めての取り組みだったので、四街道市社会福祉協議会の方々と協力しながら活動を行うことにしました。私たちは、この1年間でフードバンクを校内で3回行い、**約200品**の食品を集めて寄付することができました。最初は、フードバンクという活動があまり認知されていなかったこともあり、食品がなかなか集まりませんでしたが、校内放送や集会などで呼びかけを行ったり、ポスターを作成し掲示したことでだんだんと活動が活性化しました。また、食べ物の寄付に加えて、季節に合わせたグッズと一緒に寄付することで困窮している方々にも元気を出してもらえるように工夫をしました。

**3. JR四街道駅との共同ボランティア**  
今年度から、学校最寄りのJR四街道駅との共同でボランティアを行うことにしました。駅長さんと話し合いを重ね、今年度から駅を少しでも明るくするためにも駅構内のスペースに掲示物を飾らせていただくことになりました。私たちは、駅を利用する方々に掲示物を見てもらうだけでなく、この活動に**参加していただきたい**と考えました。5月は、このぼりをモチーフに掲示物を作成しましたが、そこにある工夫を加えることで駅を利用する方々にも活動に参加してもらえるようにしました。その工夫とは、小さなこいのメッセージカードを作成し、そこに自分の**夢や目標**を書いてもらい飾ることで私たちが駅利用者の方々でひとつの掲示物を作り上げるというものです。実際に、この活動で多くの方がメッセージカードを作成してくれたこともあり、駅もかなり明るくなりました。私たちは、これらの活動を行い、コロナ禍であってもボランティアをどうすれば行うことができるのかを考え実践してきました。今後も活動を継続していき、学校のある地域を少しでも明るく、活気あるものにしていくことができるように頑張りたいと思います。

#### 活動実績

1. 市内の特別支援学校・介護老人福祉施設への掲示物、メッセージカードの作成
2. フードバンクで**約200品**の食品を寄付  
→「千葉日報」に取材されました！
3. JR四街道駅での共同ボランティア第1弾「こいのぼりの掲示物」  
→7月には第2弾「七夕の掲示物」を予定



### 「地域一体型ボランティアを目指して」

#### 今後の展望

私たちは、今後もボランティアを続けていく中で「こころの交流」をテーマとしたボランティアを学校のある四街道市内の他の3つの高校にも広めていき、**地域一体型**でのボランティアを実現したいと考えています。もし、この地域一体型のボランティアが実現すれば、4校合同での規模の大きなボランティアを行うことができるようになります。そうすれば、より多くの人の力に成ることができ、高校生にもできることがたくさんあるということ世の中に発信できると思います。今現在、本校が四街道市内で初めて行っているフードバンクをモデルとして他校と共に活動するための準備を進めています。この地域一体型ボランティアを今後1年以内に実現することができるように、ボランティアを積極的に進めています。また、地域行事の活性化にも協力をしていきたいと考えています。未だ、コロナ禍ということもあり制限などがありますが、地域の活動に私たちが参加することで新たなアイデアを出すことができると考えています。今後も、ボランティアを行っていき、学校のある地域を少しずつ明るくしていき、「こころの交流」の輪を広げていくことが今後の私たちの展望です。

### 「こころの交流」の輪を広げる



#### 私たちのプロフィール

**活動団体名**  
千葉県立四街道高等学校JRC同好会

**部員数**  
1年生…2名  
2年生…2名  
3年生…8名  
計12名

**活動頻度**  
週2～3日(2週間に1度ミーティング)